

現代倫理道德研究会（発表要旨）平成 30 年 4 月 11 日

外部から見たモラロジー講座再構成の可能性について

人間学研究室

研究員 山岡鉄秀

モラロジーは構造的な存立危機を迎えている。収益の約 50%を支える維持員の平均年齢が 67 歳に達した。モラロジーは本来学問であるが、事業として存立しえなければ、学問としての存続も危うくなるだろう。この危機感に基づき、より多様な層にアピールする体系に発展させる可能性を部外者の視点で模索してみた。キーワードは「共益から公益への転換」だ。これまでモラロジーは、「運命を改革する教え」として親から子へと受け継がれてきた。時代を超えて信奉されてきたが、それはややもすれば、モラロジーを実践する人々、すなわち、モラロジアン¹の共益であった。モラロジー研究所は公益財団を標榜しているのであるから、モラロジアンではない人々にも幅広く公益を資する知の体系に再構築することが重要である²と考える。具体的な方策として、現在提供されている講座への現代的コンテクストの追加、働き方改革など、現代社会が直面する問題へのソリューション提示、ストーリー重視の広報展開、道徳を competitive advantage と捉える日本的経営の再構築などを提案する。